

## 今週（3月22日から3月25日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、無担保コールO/N物は今週に入ってから調達ニーズは強く、邦銀業態を中心に▲0.008～▲0.001%の調達が見られ、週を通して極めて高い水準での取引となった。無担保コールO/N物加重平均レートは22日に▲0.005%、23日▲0.006%、24日▲0.005%と、高水準での推移が続いた。週末の25日には、より一層取り上がる動きが見られた。ターム物は期内物を中心に、▲0.005～▲0.001%での出会いが中心となった。日銀当座預金残高は週初22日の国債の大量償還と利払いを受けて540兆円程度まで増加してのスタートとなった。その後も短国買入オペや財政の払いを受けて、資金余剰となり、日銀当座預金残高は540兆円台後半まで増加した。

25日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、287,713億円の貸付が行われた（期落ちは241,811億円）。残高は28日時点で868,372億円となる見込み。なお、今回を以って新型コロナオペの民間債務担保分のオファーは終了する。

### ●レポ市場

今週のGC T/N物は出会い水準は概ね▲0.115～▲0.080%程度であった。週後半に、一時的にレートが低下する場面が見られた。

SCはロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、22日に実施された短国買入オペが増額されたことも好感され、全ゾーンで底堅く推移した。

22日に実施された短国買入オペは、前回から1兆円増額の2兆円でオファーされ、やや弱めの結果となった。

24日に実施された6M物の入札は、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

25日に実施された3M物の入札は、しっかりとした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、やや堅調に推移した。

### ●CP市場

今週のCP市場は、石油・石炭、陸運、電気機器等の業態で大型の発行が見られたほか、電力・ガス等の業態でもまとまった額の発行が実施された。その一方で年度末を目前に控えていることもあり、週間の償還総額1兆3,300億円に対して発行額7,600億円程度と大幅な償還超のマーケットとなった。市場残高は先週に引き続き26兆円台前半での推移となっており、大きな変動は見られていない。発行レートについては、新型コロナ対応オペの担保需要が剥落したことに因り、先週から全体的に上昇する傾向が見られた。先週まで見られていたようなマイナス圏で積極的に玉を確保しようとする姿勢は影を潜め、殆どの銘柄が発行頻度や金額を問わず0%近辺の狭いレンジに密集する展開となった。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/21 (月)						
3/22 (火)	27,224.11	0.215	120.00	△ 0.005	△ 0.085	5,399,800
3/23 (水)	28,040.16	0.220	121.19	△ 0.006	△ 0.085	5,421,100
3/24 (木)	28,110.39	0.230	121.24	△ 0.005	△ 0.089	5,447,000
3/25 (金)	28,149.84	0.235	121.82	△ 0.004	△ 0.088	5,479,100

## 来週（3月28日から4月1日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
3/28 (月)				
3/29 (火)	決定会における主な意見(3月17・18日分 8:50) 2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	40Y 6,000億円 3/30発行		1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月の米CB消費者信頼感指数
3/30 (水)	2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)			10-12月期の米GDP確報値
3/31 (木)	2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 28,000億円 4/1発行		2月の米個人所得・消費支出 3月のシカゴPM景況感指数 10-12月期の英GDP確報値
4/1 (金)	3月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)	TB3M 57,000億円 4/4発行	交付税借入 13,000億円 4/8借入	3月の米雇用統計 2月の米建設支出 3月のISM 製造業景況指数 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
3/28 (月)	100	6,600	6,700	国債補充 CP買入 社債買入 新型コロナウイルスオペ	300 ▲ 200  ▲ 241,800	  800 287,700	46,800	53,500	TB3M発行▲57000償還43000
3/29 (火)	0	5,000	5,000				0	5,000	財政融資資金の回収
3/30 (水)	0	14,000	14,000	全店共通	▲ 4,300		▲ 4,300	9,700	年度末諸払い 40Y発行▲5000
3/31 (木)	600	34,400	35,000	CP買入		5,000	5,000	40,000	年度末諸払い
4/1 (金)	▲ 1,000	▲ 29,000	▲ 30,000				0	▲ 30,000	2Y発行▲28000償還5700
週間合計	▲ 300	31,000	30,700	—	▲ 246,000	293,500	47,500	78,200	

3/28は日銀予想、3/29以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、コール市場は年度末の31日こそレートの若干の低下が見込まれるものの、調達サイドのニーズは根強く、引き続き▲0.01%を上回る出合いが中心となる可能性が高い。レポ市場は、年度末に向けた資金ニーズが出てくるか注目される。短国市場は、4月1日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。29日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、28日に今年度最後のCP等買入オペがオファー予定であり、レート動向が注目される。また、来週は年度末初の発行にあたる。3月末の償還額が過去最高規模の7兆円程度に達すると見られる中、事業法人の発行動向およびレート水準が注視される。

主要なイベントは、海外では30日に10-12月期の米GDP確報値、31日に10-12月期の英GDP確報値、1日に3月の米雇用統計、3月のユーロ圏消費者物価指数が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。